

2021年3月3日(水)

祈禱会の皆様、

おはようございます！（夜の祈禱会の皆様、こんばんは！）祈禱会の時間です！

【テーマ】「嘆きと悔い、そして希望」②主が敵のようになる時

【聖書のみ言葉】哀歌2章を読みましょう。

【解説】

哀歌2章は、1章と同じようにアクロスティックで構成され、エルサレム崩壊（紀元前587/586年）の後の様子について記しています。それは「主は私たちの敵のようになった」という「祈り」でもない、「叫び」です。

主ご自身がエルサレムを崩壊された（1-9a）。主は、イスラエルの繁栄を天から地に投げ落として、イスラエルを思い出されなかった。主は民の全ての住まいを、神殿や城壁やその他の建物を、王国とその王や祭司たちを、自分の敵のようにして滅ぼした。

どのように、そしてなぜ、主はエルサレムを崩壊されたのか？王や首長たちは捕囚とされ、預言者たちも主からの幻を得ることもできず、幼子や乳飲み子は広場で飢えて息絶えそうになっている（9b-12）。エルサレムよ、あなたの大きな傷をどのように慰め癒すことができるだろうか？あなたの預言者たちはあなたの罪を明らかにし、悔い改めを迫ったのではなく、偽りの言葉を伝えた。あなたを見る人たちは皆あなたの不幸を嘲笑う（13-16）。何よりも、敵のしたこれらのことは神のご計画であり、主がご自身のみ言葉を成し遂げ、エルサレムを容赦しないで崩壊し、敵を高く上げた（17）。だから、エルサレムよ、主に叫べ！あなたの心を主の前に水のように注ぎ出せ！主に向かって両手を上げよ（18-19）！

主よ、私たちの苦難をよく見てください！幼子が食われ、祭司や預言者たちが虐殺され、幼子も年寄りも道端で横たわり、若者たちも戦いで殺される。このような理不尽なことがおこって良いでしょうか？その日、生き残る者も逃れる者もいませんでした。私の敵は私たちを滅ぼしつくしました（20-22）。

【適用】

自分の味方だと思っていたはずの主が、自分の敵のように感じたことがあるでしょうか？それは極限の苦悩だったのではないのでしょうか。主が敵のように感じる時、主に叫びましょう。極限の苦悩の中で主に祈れなくても、主にうめくことはできます。そして、主は、聖霊を通して私たちの叫びを聞いてくださるのです（ローマ 8:26）。

【祈り】下記の祈りの課題を覚えて祈りましょう（主に、週報から）。その他にも個人的な祈りの課題があれば、祈りましょう。＊皆さんに共に祈ってほしいということが何かありましたら、牧師までご一報ください。ありがとうございました！

また来週、配信致します。

百合丘キリスト教会

川井信雄

（「祈禱会の時間です！」の受信をご希望の教会員の方には転送して下さい。その他、通常祈禱会に来て下さっている方にもどうぞ。その際、次回直接メールできるように、私にもCCして頂ければ感謝です。）